

エンパワーメント・フォーラム2010

メンターによる女性活躍支援を

ワーキングウーマン・パワーアップ会議と日本生産性本部は2月18日、「エンパワーメント・フォーラム2010」を東京都内で開催し、女性を中心とした企業の人事担当者ら約250人が参加した。

冒頭、同会議顧問の牛尾治朗・日本生産性本部会長が開会あいさつし、「女性の活躍の背後には、女性を支えるメンターが必要だ。女性の地位向上を熱心に考える人々が組織内に増えていくと、女性の活躍推進は成功する」とした上で、「10年後の日本の理想的な姿は、男女を問わず、自分のやりたい仕事を選べるような社会になることだ。その実現のためには、個人は自

律的に自分の人生設計を行う」という意識を持つことが重要だ」と主張した。

「メンター・アワード2010」の表彰式が行われた後、同会議推進委員の池田章子・ブルドックソース代表取締役社長が「自律とチャレンジ」女性のパワーアップに向けて」をテーマに基調講演を行った。



池田氏は、お茶くみなどの補助的な仕事を経て、課長になり、社長に就任した46年間を振り返りながら、課

パネル討議を行う(左から)アキレス氏、鬼澤氏、金井氏、岡本氏

「仕事は信頼を築く作業だ。小さなことをきちんと長くやるのがその人の信頼につながる」と強調、「男女差は能力差ではなく、仕事の経験の量の差だ。パワーアップを目指す女性は、組織の中で恐れずに勇気を出して意見を言うことが大切だ」と述べた。

メンター・アワード2010「組織部門優秀賞受賞組」人事部人材開発グループ課長鬼澤英生氏、キリンホールディングス(同賞受賞組織)人事総務部多様性推進プロジェクトの金井麻美子氏、連合会長代行の岡本直美氏(同会議代表幹事)の3人が、コーディネーターのアキレス美知子・あおぞら銀行常務執行役員(同会議推進委員)の司会進行で議論を行った。

鬼澤氏は、公募したメンターが総合職の新社員の成長を支援するメンター制度を導入している事例を報告、「メンターは公募制のため、やりきれ感がなく、『自ら手を挙げ、自ら創る、自分たちのメンター制度』として定着している」と述べた。

金井氏は入社5年目以降の女性社員の離職率低下や女性管理職の精神面からの支援などをねらいとする「キリン・メンタリングプログラム」を導入し、女性社員の意識改革を行っている事例を説明した。

岡本氏は「女性の活躍支援のためのメンター制度は、始まったばかりだ。今は将来の幹部候補生に焦点をあてたメンター制度が多いが、今後は女性の活躍のすそ野を広げていくためにも、一般職の女性のキャリアアップ施策にも力を入れてほしい」と要望した。

アキレス氏は「女性の潜在的なパワーの具現化、見える化には、本人の努力も必要だが、人事の役割も非常に大きい。メンター制度は意欲の高い女性が活躍するための助けのひとつになる」と議論をまとめた。

壇論の書写真を